

## VII. 社会的活動

## 1. 社会的活動への取組み

### (1) (学) 東海大学エクステンションセンター福岡講座

目的 開かれた大学として地域社会との交流を深め、地域社会の生涯学習、文化経済の向上に貢献すること。

対象 一般市民、本学学生および教職員

#### 実施期日・講師・演題

開催日時	テーマ (内容)	講師	受講者数
7月10日(土) 13:00~14:30 会場: 本学 2102 教室	第1回「観光とホスピタリティ」 = ANAでの実践経験を活かして =	東海大学観光学部 観光学科 教授 舘野 和子氏	56名
3月12日(土) 14:00~15:30 会場: 本学 3号館 2階	第2回「満足を越える感動のおもてなし」 = 諸外国の事例に学ぶホスピタリティ =	東海大学福岡短期大学 学長 西野 仁氏	63名

### (2) 観光文化研究所

#### 1) 運営方針

本研究所は、1995年6月、内閣総理大臣の諮問機関である「観光政策審議会」の答申にもとづき、且つ地元九州における福岡県経済同友会などの要請に対応する形で1996年4月に設立された。

観光産業が国家の基幹産業として認識されるようになった昨今、観光への取り組み方も、環境への配慮など従来とは異なる視点が求められている。本研究所では、21世紀における観光産業のあり方について、その課題を明らかにし、実践的な活動を通じて、観光の健全な発展を図ることを目的としている。

福岡を中心とする北部九州は、以前から異文化交流の盛んな所であったが、近年、発展著しい東アジア地域と我が国との接点として国際化が進んできた。また観光は地元九州・沖縄でも地域経済を支える基幹産業として成長しており、それだけに地域経済の活性化や、生活環境の保全などさまざまな課題を抱えていることも事実である。

こうした理由から、九州という立地を生かしながら、広く国際社会を見渡し、国内との連携を図りつつ、新しい時代における観光のあり方を明らかにすべく、本学に観光文化研究所が開設された次第である。

#### 2) 活動の基本方針と特色

観光文化を学際的に捉えるため、比較文化や国際地域文化圏研究等を含むフィールドワーク、高度情報社会の基幹システムに成長したインターネット等のICT技術の集積、地域や観光産業と連携した高度な社会性を基礎に、現代社会で要請されている「観光文化研究の基礎づくり」をすることが本研究所の第一の目的である。

また現代社会において、観光の果たしている役割はきわめて重要であり、本研究所では従来、さまざまな分野で個別に研究されていた観光を、それらの成果を踏まえながら、統合的な視野から学術的に研究することを目的としている。

具体的には、国際化時代に観光の果たしている社会的、経済的な役割を明らかにし、観光産業の基本理念として注目されているホスピタリティという視点からのアプローチを図ることを研究テーマとするとともに、21世紀の課題とされている「環境保全」を観光という分野から推進するエコツーリズムの研究や、地域再生という視点からの地域における観光の取り組みに力を入れているのが、本研究所の特色である。

#### 3) 観光文化教育に関する研究

観光文化の教育に関する研究として、以下に挙げる活動を実施している。

(a) カリキュラムの研究

(b) インターネット等マルチメディアを活用した多角的、多元的教育の研究

- (c) エコツーリズム、地域ツーリズムに関する研究及び研究会の開催
- (d) 教育評価の測定に関する研究
- (e) 学内外の関連教育機関との提携、交流、人材の発掘や育成

#### 4) 観光文化における関連諸科学との総合研究

観光文化そのものに関する理論研究、および観光文化と関連する諸科学との学際的な研究として、以下に挙げる活動を実施している。

- (a) 観光文化の普遍的命題の研究
- (b) 比較文化や海外文化圏地域研究などとの共同による観光文化の深化と向上についての研究
- (c) 観光文化の経済・社会への波及効果の研究
- (d) 観光文化の質的・量的環境動向（予測）に関する研究
- (e) 観光文化に関する公開講座や研究会等の開催と講師の派遣
- (f) その他、研究所にふさわしい諸活動

#### \*備考

本研究所は、上記の諸研究の他にも学内外に広く研究テーマを公募していく方針である。特に若手研究者の発掘と育成のための産官学共同による学術論文の募集と、共同研究の充実を図る。

#### 5) 活動概要

##### a. 観光文化研究所所報第14号の刊行

2011年3月20日付けで所報14号を発行した。第14号は、シンポジウム報告、研究所所員による研究論文に加え外部の研究者からの寄稿及びエッセイなど計7編の記事を掲載した。発行部数は700部、装丁はA4判、総頁数60ページ。

掲載原稿は下記の通り。

特集：第1回観光シンポジウム「外国人旅行者で変わる九州の観光」

基調講演

榎本 通也

パネルディスカッション

(1) 外国人旅行者受け入れの課題

加藤 英一

(2) 九州への訪日旅行を促進する方策

吉田 博行

(3) 観光資源としての世界遺産

松本 亮三

(4) 国際リゾートで学ぶおもてなしの心

西野 仁

宗像への旅行者行動に関する注意

宮内 順

宗像大社における観光動向実態調査についての報告

岩田 千鶴子

韓国におけるメディカル・ツーリズムの現況とマーケティング戦略の構築

大方 優子 他

ショッピングも旅の楽しみ

成 耆政

東海大学海外研修航海での「出会い」そして「再会」

岡寄 八重子

New York Report:2010 Winter Holiday Season

北濱 幹士

Mary Yoshioka

##### b. 講師の派遣

宗像市の主催するルックルック講座、高齢者大学、さらに近隣自治体の実施しているシニアカレッジ等に講師を派遣し、「地域と観光」等についての講演等を行った。

##### c. 外部機関との協力、共同研究

###### (1) 宗像市交通体系協議会への委員派遣

宗像市は、玄海町、大島村との合併により、新生宗像市として再スタートを切ったが、宗像市に併合されることになった大島村、地島では過疎化、高齢化が進み、離島への渡船サービスの健全な運営が重要な課題となっている。宗像市では、合併を機に、島民の利便性を損なうことなく、渡船の健全な運営を実現し、さらに市域全体に関わる交通体系の見直しを図る目的で、宗像市交通体系協議会を設置、観光による離島の活性化のためのインフラとしての渡船の位置づけを検討すると

もに、宗像市の交通体系全般の見直しを行っている。観光文化研究所は、過疎地域における交通サービスの確保、地域社会への協力、将来的に観光による離島の活性化などの観点から、協議会に参加し、地域との協力体制の強化を図っている。

#### (2) 観光振興を目指す食と農の循環研究会

宗像観光協会、宗像市市民環境部資源廃棄物課、同産業振興部商工観光課、同農業振興課、同市民環境部環境保全課、宗像市商工会、玄海ホテル旅館組合等と共同で、宗像市玄海地区における循環型システムの構築と環境に優しい観光への移行に取り組んでいる。

具体的には、宗像市玄海地区のホテル・旅館・飲食店から排出される年間 600 トンに及ぶ食品残渣を資源の有効活用、環境保護の観点から、①食品残渣の有機肥料化を行い、②有機肥料を使った有機野菜をブランド化し、③宿泊施設、飲食店に提供するという循環システムを構築、さらに、こうした地域環境に優しいシステムの上に、環境調和型の魅力的な観光地としての玄海をアピールし、地域振興と環境保全を目的とした新しい観光の考え方であるエコツーリズムを推進するというものである。観光文化研究所では、地域との連携、エコツーリズムの実践という視点から、研究会に参加し、共同研究を行っている。

#### (3) 特産品開発事業

宗像市商工会と協力、宗像農協、鐘崎漁協、宗像漁協など地元の各種団体とともに宗像エリアの特産品開発の推進を図っている。具体的には、宗像の名産、特産品を「むなかた季良季（きらり）」ブランドに認定するほか、地元で生産された食材を用い、宗像を代表する独自の特産品開発を助成している。観光文化研究所では、特産品開発委員会およびむなかた季良里認定事業委員会に委員を派遣し、特産品開発事業の振興を図っている。

#### (4) 宗像市中国人旅行者の現状と課題の実態調査

西南女学院大学の観光グループとの共同研究により「中国人旅行者の現状と課題」の実態調査に取り組んでおり、2009 年度は福岡県以外の北部九州を中心に、中国人旅行者に関する行政機関、観光関連の民間企業などにインタビュー調査を行った。

### 6) 所員構成

所長	宮内 順	国際文化学科教授
研究所員	吉岡メリーエレン	国際文化学科教授
研究所員	神山 高行	国際文化学科准教授
研究所員	大方 優子	国際文化学科講師
研究所員	北濱 幹士	国際文化学科講師
研究所員	竹内 裕二	国際文化学科講師

### (3) 地域総合連携研究室

#### 1) 運営方針

本研究室は 2007 年 6 月、学生教育に主眼を置いた地域活動を活発化させ、地域との連携強化を促進することを目的として学内に設立した。

この目的を踏まえた上で本研究室は、その教育の場を地域に求め、現存する地域の課題を教育の課題とし、地域住民と一緒にあって課題解決のために学生が活動することによって、社会人基礎力の向上をはかるとともに、その成果がリアルに地域活性化につながる流れの取組みを行う。

#### 2) 地域活動教育に関する研究

- (a) 学生の積極的行動力の育成
- (b) 地域に山積するリアルな課題を系統的に解決する調査研究
- (c) 産官学民連携による実践的地域活性化に関する研究

- (d) 地域活性化に関する実践的取組み研究
- (e) 地域活性化に関連する学内外の各種機関との提携、交流、人材の発掘や育成
- (f) 学生の実践力育成に関する評価測定の研究

### 3) 今後に向けて

地域社会に信頼・支持される短期大学であるために、地域社会との交流を深め、地域社会の生涯学習、文化、経済の向上に積極的に貢献していくことは重要である。しかし、2年間で学生が入れ替る短大の継続性という問題点については、体制作りの見直しが必要である。また、学生の活動時間と地域のタイムスケジュールの調整が難しいという問題についても改善の余地がある。さらに、活動の増加してよい半面、身動きが取れない状況とならないための工夫が求められる。

## 2. 国際交流・協力への取組み

### (1) 海外研修

#### 1) 韓国短期留学

<プログラム概要>

対 象：指定関連科目である「韓国語Ⅰ」または「韓国語コミュニケーションⅠ」を履修している国際文化学科及び情報処理科の1年生

授業科目：「韓国短期留学」（国際文化学科専門科目2単位）

参加者数：学生7名、引率教職員1名

内 容：韓国語のコミュニケーション力の向上を目的とし、語学の授業が中心となっているが、同時に、韓国での実際の生活体験を通して、言葉をその文化とともに総合的に学ぶために必要な韓国文化研究と、将来アジアの観光分野で活躍することを希望する学生向けの観光研修プログラムも体験できるように構成されている。

期 間：2010年8月4日（水）～17日（火）の14日間

場 所：東義科学大学（韓国釜山市）

参加費用：70,000円（内訳：福岡～釜山往復旅客運賃、燃油サーチャージ、港／大学間の送迎バス代、実習費、教材費、宿泊費、旅行傷害保険料、港使用料、ツアー代、等）

※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

#### 2) ハワイ短期留学

<プログラム概要>

対 象：指定関連科目である「英語Ⅰ」または「英語コミュニケーションⅠ」を履修している国際文化学科及び情報処理科の1年生

授業科目：「ハワイ短期留学」（国際文化学科専門科目2単位）

参加者数：学生13名、引率教職員1名

内 容：ハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）のネイティブ・スタッフによる英語の語学研修を中心とした14日間の短期留学プログラム。HTIC内での語学研修や屋外での様々なフィールドワークへの参加を通じて、教室の内外で生きた言葉、コミュニケーション能力を重視した実用的な英語を学ぶ。

期 間：2010年9月8日（水）～21日（火）の12泊14日間

場 所：ハワイ東海大学インターナショナルカレッジ（米国ハワイ）

参加費用：190,000円（内訳：航空運賃、燃油サーチャージ、空港使用料、航空保険料、HTICでの宿泊費・食費、研修費、教材費、施設入場料、現地バス代、等）

※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

### 3) 中国短期留学

＜プログラム概要＞

対 象：指定関連科目である「中国語 I」または「中国語コミュニケーション I」を履修している国際文化学科及び情報処理科の1年生

授業科目：「中国短期留学」（国際文化学科専門科目2単位）

参加者数：学生15名、引率教職員1名

目 的：中国語のコミュニケーション能力の向上を目的に、北京第二外国語学院が実施する語学プログラムに加え、中国での生活体験を通し、中国の文化を総合的に学ぶために必要な実地研修を織り込んだ科目で構成する。

期 間：2011年2月28日（月）～3月13日（日）の14日間

場 所：北京第二外国語学院（中国北京市）

参加費用：90,000円（内訳：北京往復旅客運賃、燃油サーチャージ、空港／大学間の送迎バス代、旅行傷害保険料、空港使用料、燃油特別付加運賃、宿泊費、現地ツアー代、等）

※このプログラムには、法人から1人あたり2万円の松前重義記念基金の短期大学（部）派遣留学生奨学金の補助を得て実施している。

### 4) 海外研修航海

＜第42回海外研修航海＞

参加者数：学生97名、団役員14名。うち、本学からは研修学生として国際文化学科1年1名（黒木梨沙）が参加した。

目 的：学園の大学・短大に在籍する学生より広く公募・選考し、本学所有の海洋調査研修船「望星丸」（1,777トン）を使用して諸外国を訪問し、海外の諸文化、諸事情に触れ、国際的視野に立った世界観・人生観の確立をめざすと共に、船内という限られた生活環境の中で、教員、仲間との共同生活を通じ協調性を養い、より豊かな人間形成をはかることを目的とする。

研修期間：2011年2月15日～3月27日（41日間）

研修都市等：コロール→ラバウル→ヌメア→コスラエ

参加費用：398,000円

## (2) 留学

### 1) 交換留学

学校法人東義大学と学校法人東海大学の基本協定に基づく東義科学大学（韓国）と本学との交換留学生の派遣に関する覚書（2008年2月25日付締結）に則り、国際文化学科1年2名（平山華美、吉野妙美）が留学した。留学期間は2011年2月27日～2011年6月30日。

### 2) 派遣留学

2010年度東海大学海外派遣留学制度により、本学から留学した学生はいない。